

■ 学校の共通目標

<b>授業作り</b>	<b>重 点</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科や総合的な学習の時間等において問題解決的な学習を行う。主体的に考え表現する活動を意図的に計画し、児童同士が伝え合い、高め合う授業を目指す。</li> <li>特別支援を必要とする児童が落ち着いて学習に取り組むことができるように、まなびの教室の教員と協力して教室環境、学習環境を整備する。</li> </ul>	<b>最終 評価</b>
<b>環境作り</b>			

■ 学年の取組内容

学年	教科	令和元年度の定着度調査（1学年を除く）や6月以降の学習状況に基づく分析	学力向上に向けての児童の課題	改善のための取組	追加する取組等（12月）	年度末の取組評価（2月）
1	国語	<p>学「話すこと」については意欲的である。「聞くこと」については、話に集中することはできるが、必要なことを聞き流さないようにすることは、十分定着しているとはいえない。</p> <p>学平仮名の読み書きはほぼ習得しているが、片仮名の読み書きは、十分定着しているとはいえない。一、二文の文章を書くことについては意欲的であるが、語と語や文と文の続き方に注意してつながりのある文章を書くことに対して苦手意識をもつ児童が多い。また、語彙が少なく、言語事項の習得状況に個人差がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大事なことを落とさずに聞けるようにする。</li> <li>文や文章の中で片仮名を適切に使えるようにする。</li> <li>自分が書いた文を読み返す習慣を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校朝会後に、校長講話の内容をノートに書かせる。</li> <li>身近にある片仮名で書く語を毎日少しずつ取り上げ、文や文章を書く場面を意図的に設定する。</li> <li>視写や作文指導など、文章を書く機会を多く設ける。また、書き出しの文を統一したり、友達の書いた文章を読んだりすることで、様々な「書き方」を身に付けられるようにする。</li> </ul>		
	算数	<p>学10以内の加法については、概ね理解できている。</p> <p>学10以内の減法については、理解はしているが計算に時間のかかる児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10の補数をすぐに言えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の最初に毎時間、10の補数の学習を行い、数に対しての苦手意識を取り除く。</li> <li>おはじきや算数ブロックなどの半具体物を用いた操作活動を計画的に取り入れる。</li> </ul>		
2	国語	<p>学話すことについては意欲的だが、聞く力は十分身に付いているとはいえない。話し方についても、よい姿勢や適切な声の大きさで、分かりやすく話せる児童は多くない。</p> <p>学新出漢字を丁寧に書いて練習するなど意欲的に取り組む一方、定着には個人差がある。また、文章を書く際、主語、述語の関係が曖昧であったり、助詞の使い方がまだ定着していない児童がいる。語彙の量についても個人差がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集中して、大事なことを落とさないように話を聞けるようにする。</li> <li>事柄の順序に沿って簡単な構成を考えて、文章を書けるようにする。また、書いた文章を読み返す習慣を付け、間違いなどに気付き、正す力を身に付ける必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中に、尋ねたり、応答したり、小グループで話し合ったりする活動を意図的に取り入れる。また、話す人の方を向いて話を聞く習慣を付けさせる。</li> <li>視写や、文法事項、作文の学習を、朝学習の時間に計画的に取り入れる。</li> <li>著しく理解の不足している児童に対して、放課後等を活用して、個に応じた指導を行う。</li> </ul>		
	算数	<p>学ほとんどの児童が2位数の加法及び減法について、計算の仕方を理解している。</p> <p>学自分の考え方を表現したり、友達の考え方と比べたりする力がまだ不十分である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>たし算やひき算の筆算は、理解できているが、一位数の繰り上がりや繰り下がり計算がまだ身に付いていない児童もいるので、定着のための練習量の確保や個別指導が必要である。</li> <li>話し合いによってよりよい方法を導き出したり、問題を解決したりすることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎・基本の学習を充実させる。具体物を操作したり、図に表して考えたりするなどの活動を取り入れる。</li> <li>毎時間スキル練習の時間を設けたり、家庭学習を活用したりして、定着を図る。</li> <li>小グループの活動や、児童相互のコミュニケーションを重視した学習スタイルを定着させる。</li> <li>著しく理解の不足している児童に対して、放課後等を活用して、個に応じた指導を行う。</li> </ul>		
3	国語	<p>学国語科の学習に意欲的に取り組む児童や、本を読むことが好きな児童が多い。日記や詩を書くことも好きではあるが、指定された長さで文章を書くことには苦手意識をもっている児童が見られる。漢字の読み書きの習熟度や語彙力に個人差が見られる。</p> <p>調各領域の正答率は、いずれも目標値をやや上回っているが、説明文を読み取る力は区平均正答率と比べて5ポイント、指定された構成で文章を書く問題は3ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の中で、漢字を正確に書き、適切に用いることができるようにする。</li> <li>限られた文字数や、決められたテーマに基づいて、考えをまとめて書くことができるよう指導する必要がある。</li> <li>語彙力を向上させる。</li> </ul> <p>・接続語や文章表現に注目して説明文を読むことができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新出漢字の定着を図るため、漢字テストに繰り返し取り組ませる。</li> <li>基礎基本の学習の時間を使って、テーマ作文や、言葉パズル等に取り組ませる。書いた作文を掲示し、友達の書きぶりのよさが見えるようにする。</li> <li>教室に掲示している「言葉の宝箱」を、物語の読み取りや作文の学習時に生かす。</li> <li>説明文に出てくる接続語や文章表現を掲示し、読み取りの学習に生かす。</li> </ul>		
	算数	<p>調かけ算九九やたし算、ひき算の演習を、繰り返し行うことによって、基礎的な計算の力が付いた。</p> <p>調「量と測定」の領域においては、定着に課題が見られた。</p> <p>学問題解決型の学習を行うことによって、課題に対して自分の考えをもつことができるようになってきている。</p> <p>学自分の考えと友達の考えを比較する力が十分とはいえない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「量と測定」領域の既習事項を確実に習得できるようにする。</li> <li>友達の考えにふれ、比較して考える力を伸ばす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「長いものの長さのはかり方と表し方」「重さのたんいとはかり方」の単元の導入時に既習事項を確実におさえるとともに、実際に測定させる機会を多く設けて、習熟させていく。</li> <li>自分の考えと友達の考えの、似ているところと違うところを考える活動を取り入れる。</li> <li>引き続き、基礎基本となる計算力を身に付けさせるため、授業の冒頭で反復練習を行う。</li> </ul>		

4	国語	<p>学最後まで話を聴く意識が付いてきた。一方で自分の考えを分かりやすく話すことができる児童はまだ少ない。</p> <p>調漢字の読み書きの習熟度や語彙力に個人差がある。</p> <p>調書こうとすることの中心を明確にして文章を書くことに課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手や目的に応じて話す力を育てる。</li> <li>・文章の中で、漢字を正確に書き、適切に用いることができるようにする。</li> <li>・書こうとすることの中心を明確にして文章を書く力を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰に何を伝えるのかを考える機会を設け、小グループで話し合ったりする活動を意図的に取り入れる。</li> <li>・基礎基本の学習の時間を使って、既習漢字の復習や語彙を増やすための言葉パズル等に取り組みさせる。</li> <li>・基礎基本の学習の時間を使って、テーマ作文に取り組む。書いた作文を掲示し、振り返りの時間や友達の作文を読む時間を確保することで、文章を読み返す習慣を付ける。</li> <li>・教室に掲示している「言葉の宝箱」を物語の読み取りや説明文、作文指導時に活かす。</li> <li>・テーマに沿った文章を書く練習を重ねていく。</li> </ul>		
	算数	<p>調乗法・除法の立式と計算については区平均をやや上回っており、基礎的・基本的な力が身に付いている。</p> <p>調文章問題や、計算の仕方を説明する問題において区平均をやや下回っている。</p> <p>学実際に測る活動を多く取り入れたことにより、長さやかさについての理解が深まった。</p> <p>学桁数を増やした計算や、繰り上がりの操作の多い計算でミスが見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題場面を正確にとらえる力や、自分の考えを図や式で表す力を伸ばす。</li> <li>・かけ算やわり算の筆算に習熟する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアやグループの学習で、自分の考えを図で表したり、友達の考えを読み取ったりする機会を取り入れていく。</li> <li>・一つの単元の中で、様々な形式の文章問題に取り組みさせる。</li> <li>・一定の時間内に正確に問題を解く練習を定期的に取り入れる。</li> <li>・繰り返し練習したり、見直したりする習慣を付けていく。</li> <li>・繰り上がりや繰り下がりの方を書くよう、声を掛ける。</li> </ul>		
5	国語	<p>調令和元年度新宿区学力定着度調査では、全体的な正答率が目標値においても、全国平均値においてもすべての項目で上回っている。基礎的・基本的な力はおおむね身に付いているといえる。</p> <p>学文章を書いたり、叙述に即して読んだりすることが得意な児童が多い。それに対して、要点を開き取ったり、相手や目的に応じた話し方で話したりする力が十分とは言えない。新出漢字の習得については個人差が大きい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手や目的に応じた文章を書く力をさらに伸ばす。</li> <li>・漢字を正確に書き、文章の中で適切に用いることができるようにする。</li> <li>・要点を正確に聞き取る力や、相手や目的に応じて話し方を工夫して話す力を伸ばす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝作文や、宿題のテーマ作文を通して、様々な種類の文章の書き方を身に付けさせる。その際、児童が具体的なイメージをもつことができるよう、教師がモデルとなる文章を書き、それを児童に見せる。</li> <li>・児童が正しい漢字を書くことができるよう、漢字学習ノートの間違いがあった部分に印を付け、直して再提出させる。</li> <li>・新出漢字の確実な定着を図るため、朝の漢字ミニテストに繰り返し取り組ませる。</li> <li>・相手を意識して話したり聞いたりすることができるよう、朝の会に日直のスピーチを取り入れ、それに対する感想を述べさせる。</li> </ul>		
	算数	<p>調令和元年度新宿区学力定着度調査では、領域別に見ても、観点別に見ても、全ての項目で目標値を上回っており、学習内容をおおむね理解できていると考えられる。</p> <p>学学習した内容をしっかり理解することができている一方で、未習の内容に対して、既習事項を活用したり、関連付けたりすることが苦手な様子が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な計算の基礎となる、かけ算とわり算の筆算に習熟する。</li> <li>・問題場面を正確にとらえる力や、考え方を図や式で表す力を伸ばす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の冒頭に、5分間の計算練習を取り入れる。</li> <li>・児童が学習のつながりを意識できるよう、学習感想の視点を明記する。</li> <li>・図や式を効果的に使っているノートを提示し、参考にさせる。</li> <li>・既習事項をもとに自分で解き方を考える時間を十分確保し、それを友達に自分の言葉で説明する活動を多く取り入れる。</li> </ul>		
6	国語	<p>学漢字の読み方や使い方についての理解が不十分な児童が見られる。</p> <p>学自分の考えを、事実と意見を区別して文章を書くことが難しい児童が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字や熟語の意味を理解し、文脈に沿って読んだり正しく書いたりする力を育てる必要がある。</li> <li>・作文に対する抵抗感を無くす。</li> <li>・主述の関係など、文法に関する理解度を高める。</li> <li>・語彙力を向上させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークテストを通して漢字の習熟度を測り、既習漢字の理解を確実にする。</li> <li>・書くことに対する抵抗感をなくすため、他教科においても書く活動を取り入れたりと、朝学習でテーマ作文に取り組ませたりする。</li> <li>・教室に「言葉の宝箱」を掲示し、語彙を増やす。</li> </ul>		
	算数	<p>調令和元年度新宿区学力定着度調査では、領域別正答率、観点別正答率ともに目標値を6ポイント以上上回っており、おおむねよく理解している。基礎と活用に分けて見てみると、活用が目標値を16ポイント以上上回っているのに対して、基礎は8ポイントほどにとどまっている。</p> <p>調「数と計算」領域は目標値を6.1ポイント上回ったが、他領域と比較するとまだ低い水準にある。</p> <p>学反復練習の効果はある程度認められたが、間違った箇所を確実に直そうとする意識はまだ十分とはいえない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な既習事項を、さらに確実なものにする。</li> <li>・間違いを直す習慣をつけていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元の導入の時間に、既習事項を確認する。</li> <li>・整数と小数、数のしくみについて、普段の生活と結び付けた指導をする。</li> <li>・間違いをそのままにせず、自分の力で解けるようになるまで繰り返し練習することを習慣付けていく。</li> </ul>		
音楽	<p>学各学年共に関心・意欲は高く、自由な発想ができる児童が多い。器楽の授業の際は意欲的だが、鑑賞の授業の際は意欲が低下する児童が見られる。器楽では、自分のパートを正確に演奏する技術をもち、友達の演奏を聴いてハーモニーやリズムのずれに気付くことができる児童が多いが、一方で楽器の正しい使い方を理解していない児童、読譜ができない児童、どのように演奏するか思いをもっていない児童も見られる。鑑賞では感じ取ったことを自分なりに言葉で表現できるが、音楽を聴き深めるといふことに関しては個人差があり、感じ取った根拠となる音楽の要素と合わせて説明することができる児童はまだ少ない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞の授業に対して、関心・意欲をもてるようにする。</li> <li>・思いをもって演奏したり、聴き深めたりできるようにする。</li> <li>・正しい楽器の使い方を身に付ける。</li> <li>・音楽的な語彙を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つかみを工夫したり、細かく段階的に進め、理解できない児童を減らしたりすることで、児童の関心・意欲を引き出す。</li> <li>・演奏前に、個人で目標を決めさせる。</li> <li>・器楽の題材の初めには必ず、よい音の出し方について指導する。</li> <li>・音楽の語彙を増やすため、音楽に関する語彙カードを有効に活用する。</li> </ul>			

図工	<p>学各学年共に関心・意欲は高い児童が多い。題材によっては意欲をもてない児童が見られる。発想や構想の能力には個人差があり、表現が深まらない児童が見られる。他の児童の作品を見たり、会話したりする中から新たな発想を広げている児童が多い。創造的な技能については題材ごとに指導をしているが、道具の使い方が身に付かない児童がいる。鑑賞活動については、意欲的に取り組んでいる児童が増えてきているが、言葉が適切でない児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な題材に対して、関心・意欲をもてるようにする。</li> <li>・発想を深める。</li> <li>・正しい道具の使い方を身に付ける。</li> <li>・鑑賞活動の際の見る観点や使う言葉について理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な題材を取り入れ、児童の関心・意欲を引き出す。</li> <li>・作品の完成前に鑑賞の時間を設け、自身の製作に生かせるようにする。</li> <li>・既習事項を繰り返し確認、指導しながら授業をする。既習事項を生かした学習を設定する。</li> <li>・鑑賞の際は作品を見るポイントを提示、作った相手のことを考えた言葉選びを行う等、思いを交流する活動を大切にしていく。</li> </ul>		
特支	<p>学個人差はあるが、発達特性から、コミュニケーション能力や読み書き、運動能力等に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを考えたりできるようにする。</li> <li>・文字の読み書きや文章を書くための基礎的な力を伸ばす。</li> <li>・基本的な体の動かし方が、身に付くようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個の課題を的確に捉え、個に応じた指導を充実させる。小集団指導では、コミュニケーション能力や運動能力を高める活動を設定する。</li> </ul>		

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。